

組合の楽しい便り 投稿歓迎します。

No432

ラベルニュース

東京都ラベル印刷協同組合

☎111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

令和3年8月号

編集:広報・情報システム委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

大企業だけの問題ではない

「サイバーセキュリティ対策」に

中小企業も本腰を入れるとき

ここ最近毎日のように目や耳にしている「サイバーセキュリティ」とは一体何でしょうか。中国がアメリカや日本にサイバー攻撃を仕掛けているなどというニュースは一見我々には関係ないと思われるかも知れませんが、果たしてそうでしょうか。

「うちのパソコンはウイルスソフト」を入れているから大丈夫という方もいるでしょうが、現実には年々サイバー攻撃は手の込んだものになってきています。サイバーセキュリティ(Cyber Security)を簡単に説明すると、コンピューターやWebサイト、サーバーなどへの不正アクセスを防ぎ、電子情報の不正な取得・流出、そして改ざんの防止や、防止を目的とした対策のことを言います。

コンピュータやWeb上の不正アクセスは、「サイバー攻撃」と総称で呼ばれていますが、その種類は多岐にわたります。コンピューターウイルスやスパイウェアなどによる情報の取得や外部送信、パスワードの漏洩によるなりすましアクセス、Webサイトでは、左記のような情報取得のほか、DoS攻撃やDDoS攻撃といった特定のWebサイトに対して大量の情報を送り、ネットワークやサーバー負荷を増大させることによつてサイト自体を利用不可にしてしまう攻撃などもありま

す。こうしたことから国でも「サイバーセキュリティ基本法」という法律を二〇一五年に施行しましたが、この法律における定義ではまず「漏洩」「消失」「毀損」を受けるリスクがあることを前提にそれに対する備えができていくかが問われていきます。また、システムやネットワークそのものの安全性と信頼性を確保するための対策ができていくかどうか。その理由としては中小企業はサプライチェーンの羽翼を担っており、大企業の機密情報にアクセスするための踏み台として利用可能であることが挙げられています。

このため組合としても組合員のサイバーセキュリティ対策のために何かお手伝いはできないかと考えており、東京都や中央会の支援策を利用して、組合員に対してサイバーセキュリティを普及推進すべく、現在広報情報システム化委員会として検討していますので、これに関してご意見やご希望をお寄せください。

個人の情報や国家間の情報などを盗み取るもの等々様々ですが、特

「こんな時どうする?」知的財産アドバイス

これまで日印産連発行の JFPI REPORT に掲載された「こんなときどうする?」知的財産アドバイスに「掲載された事例について、今回から数回に亘って紹介していきます。」

「著作権フリー」のイラスト等の素材の利用について

Q 得意先から受注したパンフレットのデザインに、インターネット上で見つけた「フリー素材集」の中から何点かイメージに合うイラストを使用しようと思えます。特にそのイラストに加工を加える予定はありませんが、何か問題はありますか?

A 問題となる可能性があります。

“著作権フリー”や“フリー素材(集)”と称してインターネットや紙のカタログ等で提供されているイラスト・写真等は、提供している業者(又は著作権者)が設定する条件の範囲内

であれば、自由に使用してよい(すなわち、当該条件の範囲を超えてはいけな

い)というものであることが一般的です。従って、使用にあたっては、その素材集の名称やキャッチコピーを鵜呑みにすることなく、必ずその使用条件を確認してください。

地図を利用する場合の注意点について

Q 得意先から移転挨拶状の作成を依頼されました。移転先の地図も挨拶状に掲載しますが、地図の作成や利用に際して何か注意事項がありますか?

A 最寄駅からの略図を自ら作成する場合は、問題ありませんが、他者が作成した略図を転用したり、市販の地図をそのまま利用する場合は、許諾を受けないと著作権法に違反する場合がありますので注意してください。なお、その地図を

得意先がホームページ(以下、HP)に掲載することも想定されますので、許諾を得る際は、単に印刷物だけでなく、WEB掲載についても許諾を得ることをお勧めします。

得意先がホームページ(以下、HP)に掲載することも想定されますので、許諾を得る際は、単に印刷物だけでなく、WEB掲載についても許諾を得ることをお勧めします。

組合員名簿が完成
二〇二一・二〇二二年版
二〇二一・二〇二二年度版組合員名簿がこのほど完成し、組合員・会友、協賛会などに七月二〇日に発送されました。

Q 得意先より、消費者が新製品の感想を書き込んだインターネットの匿名掲示板を見つけたので、その掲示板から感想を抜き出して広告に掲載したいとの要望がありました。匿名掲示板なので本人との連絡が取り難く、必ずしも承諾が得られるとは限りません。広告掲載に関して何か問題はありますか?

A 問題があります。インターネットの掲示板への書き込みであっても、基本的には著作物であり、今回の場合は感想を書いた人が著作物となります。他の著作物と同様、利用には著作者の承諾が必要なので勝手には使えません。

組合員名簿が完成
二〇二一・二〇二二年版
二〇二一・二〇二二年度版組合員名簿がこのほど完成し、組合員・会友、協賛会などに七月二〇日に発送されました。



組合員名簿は二年に一回、役員改選の年に発行していますが、事前に組合員・会友、協賛会員に対して、前回の原稿をお送りし、訂正箇所の変更をお願いして作成しています。その後住所、代表者等に変更があった場合は組合事務局までご一報ください。

7月度理事会議事録

① 新役員自己紹介

北島理事長から新年度初の理事会が遅れてしまったことへの謝罪と今後二年間の決意が述べられ、この後新役員名も含めて出席者全員が自己紹介と決意を述べました。この後本間専務理事から東支部の宣進印刷社長の近藤剛氏が急逝したことが報告されました。

② 委員会報告

本間専務理事より広報情報化システム化委員会として、2021・2022年版の組合員名簿が二〇日に完成し組合員、会友、協賛会に發送されることが報告されました。また、北島理事長よりラベルコンテストの締め切りが1週間延びたので是非とも出展してほしいと要請があった。

③ 今後の組合事業について
今後の組合事業については新型コロナウイルス次第になってしまいが、組合研修旅行やオンラインセミナー

ーなど、可能な限り開催していきたいとの意見が出され、今後各委員会で検討していくことで了承された。今年の十月に予定されていた年次大会金沢大会はコロナのために二年後の十月に延期されたと報告された。

④ その他
今回欠席だった清宮和夫

参加から「K Sレポート」が送られてきたが、アフターコロナ、ウィズコロナの中でビジネス形態が大きく様変わりするという指摘があり、我々としても決して無関心でいられない新たなキーワードが出てきているので、今後組合としても機関紙やセミナーなどで取り組んでいくことになった。また、平山副理事長から最近得意先から契約書を作ってくれという依頼があり、例えば反社会的勢力とのつながりはないか、法令を遵守しているか等々、うるさくなってきたているが、こうした契約書のひな型のようなものを組合として作れないだろうかとの提案があり、清宮さんなどと協議して取り組んでいくこととなった。

116回ラベル会

本間専務理事が優勝

第一一六回ラベル会は、六月二十九日(火)に、茨城県取手市の「桜が丘ゴルフクラブ」に於いて開催され、本間専務理事が並みいる強豪を抑えて優勝しました。

当日は朝から本降りの雨でしたが、昼前には小降りとなり、午後には日差しが降り注ぐ絶好の天気となり、ダークホースの本間専務理事が優勝しました。

本間専務理事談「半年前からまったくの絶不調とな



り、平山さんからそれはイップスという病気ですよと言われ、今回は欠席しようと思っていきましたが、清宮さんが不参加になったため、やむを得ず参加しましたが、十八ホールでドライバーは二ホールしか使わず、後は五番ウッドで回りました。

優勝は三年ぶり三回目でしたが、いずれもハンデイ三六の時で、優勝するたびにハンデイが厳しくなりますが、前回の優勝でもいきなり二十一となり、ブルーの常連となりましたが、三年ごとのハンデイ改正でまた三十六に戻り、今回優勝することができました。

またこれでハンデイが二〇になりそうなので、三年間はブルー争いになりそうですが、三年後のハンデイ改正までおとなしくしているつもりです。皆さんありがとうございます。

一位・本間敏道五四、四六、一〇〇、HD 三六 二位・大澤雅純四六、四八、九四 三二二、三位・荒健也五〇、四四、九四、三二二、ベスグロ・恩田博、四七、四五、九二。

振り返れば五十年 私のラベル業界半世紀

専務理事 本間 敏道 12.

組合での三十数年間で一番思い出深いのは、なんといつても東京都正札シール印刷協同組合との合併問題です。この古くて新しい問題は、私がラベル新聞にいた当時からくすぶり続けていました。

当時の日報の河村博社長、不二紙工の塩飽望社長、庄司昊明専務などか仲介役として何度か話し合いの場が設けられましたが、「総論賛成、各論反対」ということで実現することはありませんでした。

私が組合に入ってから何度か話し合いの場は公式、非公式で行われましたが、いつも入り口で頓挫してしまいうのです。

その最も大きな理由が「ラベル組合さんの方が小さいのだから、解散してシール組合へ合流すれば」という吸収合併がシール組合側の言い分でした。

ところが当時の弓納持

理事長と小宮山理事長の時にまた合併問題が再燃し、小宮山理事長が「私はお互いの組合が解散して新たな組合を作る新設合併しかないと思っっています」とラベル組合が以前から提案していた新設合併の話を持ち出してきたので、平成十九年八月九日に正札シール会館に於いて合併の予備交渉を行いました。(議事録とテープあり)

当日の議事録によると、初めに小宮山理事長から「合併の目的をはっきりさせることが大事だ」と意見があり、それに対して本間専務理事が一番やってはいけない合併は、お互い組合員が減ってきたので一緒に

なりませうという安易な後ろ向きな合併である。それをやれば仮に一緒になっても組合員の減少傾向に歯止めはかからない」と発言した。

また、合併は新設合併だ

ということを正札は理事会で説明しているのかと問うと、「いや、まだ説明していない」という回答があり、ここですでに一抹の不安がよぎりました。

そして「今回は私も不転の決意で臨みます」と言っていた小宮山理事長が、何と二回目の予備交渉の冒頭で「やっぱりラベル組合さんが解散してこちらに合流するというのは無理でしょうか」と発言しました。

これには出席していた弓納持さん、栗原さん、渡辺さん、そして私も含めて全員がただただ啞然としたのでした。

当然弓納持理事長が「新設合併しかない」という小宮山さんの意見を信じてスタートしましたが、今回の予備交渉の大前提が崩れたので、これ以上の話し合いは無意味なのでこれで終わります」と、わずか二回

えてなくなり、改めて合併問題の根の深さを痛感しました。

その帰りに喫茶店で四人で話をしましたが、まさか二回目で予備交渉がとん挫するとは誰も思っていなかったもので、小宮山さんのあて意気込みは果たして何だったのかと訝るばかりでした。

結局その後いろいろな人に話を聞くと、理事会で新設合併だという話をしなかつたために、正札内の了解を取り付けることができなかつたことが要因だということが分かりました。

後から思えば小宮山さんのその時の顔は、苦渋の選択を強いられたような顔をしていた。わずか二回目で前提条件を引つ込めなくてはならなかつた正札内の意見の統一の難しさ、小宮山さんの苦悩が分かるような気もしました。

この合併問題は今後若手にバトンタッチされましたが、五十年以上前の恩讐を超えて果たして一本化できるのか。

【続く】

■新型コロナとは

よく耳にするのが、新型コロナはただの風邪、騒ぎすぎという意見です。若年者や基礎疾患がない患者さんの大部分が軽症で終わることとは間違いありません。

No180 健康がいちばん!

「新型コロナがただの風邪ではないその理由とは」

「見て誰もいない」という意見もあります。二〇二一年六月一二日時点での累積感染者数は約七十七万人なので、確かにインフルエンザほどは身近に新型コロナ感染者を目にしないはずは

ありません。死亡率が高いですが、インフルエンザよりも新型コロナのほうが重症化しやすいことが分かります。重症化リスクや死亡リスクが高いというところがこれまでのウイルスとは違うところ

■理由2 集中治療用ベッドが逼迫する

理由1:重症化率が違う」によつて次に起こることはケアを要する入院患者さんの数が増えるのです。入院しなくてもよい患者さんは、自宅やホテルで療養していただく

述したようにインフルエンザよりも重症化率が高いため、これにより重症者の絶対数が増加します。ここで、病床逼迫に陥った大阪府の第四波を見てみると、六〇〇床あまりの集中治療用ベッドがありましたが、新型コロナに使えるのは多くても二三四床というのが当初の試算でした。待機手術などを遅らせて捻出しても、せいぜい三五〇床くらいではないかと思

しかし、新型コロナはただの風邪ではありません。

■その理由1 「重症度」

医療従事者として実感される差は、「重症度」です。肺炎を起こす頻度が高いのです。インフルエンザ肺炎で入院する人は、年に数えるくらいしかいません。

「周りに感染している人な

入院を要した新型コロナ患者さん三千六百四十一人と、季節性インフルエンザ患者さん一万二千六百七十六人を比較したアメリカの研究では、死亡率はそれぞれ一八・六%、五・三%でした。入院を要した患者さんだけ

み出すことになりま

【引用資料】
<https://news.yahoo.co.jp>

なるほど・ぞ・新製品

「MLP10i」(ウ

イワサキインターナショナル(大阪府東大阪市水走五の六の十四)と、一九六五―五六三二)では、品質、価格、納期、日々高まるこれらのニーズに、操作性能、操作性能、操作性能を

最大印刷寸法は210mm

間欠オフセット印刷機を発売

シール・ラベル市場向けに2モデル



UV Letter press Intermittent Printing Machine

fusion (フュージョン)

見直し、さらなる高みを目指す、融合をテーマにした「Fusion」(フュージョン)を開発、すでに多くのユーザーで好評を博している。

送り量・50〜200 mm
 ■最大原反径・φ450mm
 ■所用電源・三相 200V 32KVA ■機械重量・3940kg
 広い原反幅に対応するワイドタイプ「Fusion W」や、「後加工平抜装置Dシリーズ」も用意している。

この他にもオプションユニットとして、コールド箔ユニットで、大面積箔加工が可能となり、箔表面に印刷を行うなど多彩なアレンジができ、ラベル付加価値を高めま

同社の印刷機はこの他にも「オフセット間欠輪転ラベル印刷機 TR2」「オフセット間欠輪転ラベル印刷機 AQUAMINI」「フレキソ間欠輪転ラベル印刷機 IF330」等々、使用目的に合わせた多くの種類がある。

フレキソ方式により印刷の安定感が増した裏面印刷・糊面印刷の2Wayユニットがあり、この他にも多くのユニットが準備されている。

様々な顧客のニーズに対応る為に多機種の後加工機をラインナップしており、これらの機種は顧客のビジネスをさらなる成功へと導きます。

FusionMT4 の仕様は次の通り。

同社のホームページは <https://www.itk-iii.co.jp>

■色数・四色 ■機械速度・30〜200rpm ■原反幅・50〜220mm ■最大印刷

